

会議議事録（要旨）

							記録者	主幹 関口 裕城	
供覧	部長	政策監	課長	補佐・GL	係長	課員			
件名	平成 25 年度第 2 回龍ヶ崎市公共施設再編成行動計画策定に係る有識者会議								
年月日	平成 25 年 7 月 22 日（月）								
時間	午後 2 時から午後 4 時								
場所	龍ヶ崎市役所 5 階全員協議会室								
出席者	<有識者会議委員> 藏田幸三委員長 西尾真治委員 岡田直晃委員 志村高史委員 松尾健治委員 飯田俊明委員 龍崎 隆委員 7 名 <事務局> 島田企画課長補佐（行政改革推進グループリーダー） 小林主幹 関口主幹 佐々木アドバイザー								
欠席者	倉斗綾子副委員長								
報告及び議題	(1) 開会 (2) 前回の協議内容について (3) 公共施設の現状把握の手法について (4) 閉会								
会議録署名人選出	岡田委員、志村委員を選出								
傍聴人の数	3 名								
情報公開	公開	非公開（一部公開を含む）とする理由			（龍ヶ崎市情報公開条例 9 条 号該当）				
	部分公開	公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）							
	非公開								

発言の内容（文中敬称略）	
事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただ今より、「平成25年度第2回龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議」を開会いたします。</p> <p>藏田委員長が会議で遅れております。事務局が進行を行うよう指示がありましたので、よろしくお願いします。</p> <p>なお、当審議会は「龍ヶ崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、公開となりますのでご協力お願い申し上げます。</p> <p>本日は本会議におきまして、傍聴人の申し出がありましたので、これを許可しております。傍聴人に申し上げます。会議中は、静粛に傍聴いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議録の署名でございますが、岡田委員と志村委員に、議事録の署名人をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、委員長からは、前回の協議の内容、そして前回の「龍ヶ崎の現状」について説明をしておくようにとの話がございましたので、事務局より説明をいたします。</p>
事務局	－資料に基づき事務局が説明－
事務局 （議事進行）	<p>ありがとうございました。ここまでは第1回会議の議事録の要旨を皆さんに説明すると同時に、前回第1回会議で龍ヶ崎の地域とはどのような特性を持っているのかというご質問があり、龍ヶ崎の13小学校区の地域の特性を説明させていただきました。</p> <p>内容としては、人口の推移或いは高齢化率、さらには、医療機関やスーパー、コンビニエンスストアの店舗数など、どんな地域か見えるような資料について、ご紹介をさせていただいたところです。</p> <p>ここで皆様からのご質問、或いはご意見がございましたらお願いしたいと思います。志村委員、よろしくお願いします。</p>
志村委員	<p>議事録は一語一句をテープで起こしているのですが、たぶん大丈夫だと思いますが、この議事要旨の2ページ「障がい者施設の民営化（社協）」と書いてあります。多分社会福祉法人と言っていると思いますが、もし発言の中で社協と言いましたら、社会福祉法人のことだと思ってください。</p>
事務局 （議事進行）	<p>早速訂正させていただきたいと思います。</p> <p>岡田委員、前回龍ヶ崎市の情報が少ないとのご指摘でしたが、今日はいかがでございますか。</p>
岡田委員	<p>じっくり拝見させていただきたいと思います。興味深いのが、駒馬台小学校区や城ノ内小学校区は駅から遠く不便に思えるのに、ニュータウンとして開発されていることです。もう少し詳しく見てみたいです。全体的に人の動きとしてどういうものなのか、よくわかったと思います。</p>
事務局 （議事進行）	<p>西尾委員いかがでしょうか。</p>
西尾委員	<p>地域性の幅が広いように感じます。私なりに解釈しながら見ていますが、一定のエリアが若い、一定のエリアが高齢化というのではないと言いますか、ある場所は若いと一概に色分けができない状況で、地域内でも高齢化率がモザイク状に分布しているように感じます。それぞれ個別の実情に応じたきめ細かい対策が必要だなと</p>

	<p>というのが感想です。</p>
<p>志村委員</p>	<p>右下のマトリクスを見ると3大不満要因が公共交通と商業振興と財政運営です。満足度が高い要因にはごみ再資源があります。ごみ再資源化の満足度がどの地区でも高いのはなぜでしょうか。</p>
<p>龍崎委員</p>	<p>龍ヶ崎市は4つの市街地に分かれています。旧龍ヶ崎市街地、地図でいうと龍ヶ崎小学校区、これが旧市街地と言われるものです。二つ目は、佐貫駅周辺の馴柴小学校区です。あともう一つは松葉小、長山小に象徴される北竜台地区というニュータウンの地区があります。そしてもう一つが八原小学校区、城ノ内小学校区からなる龍ヶ岡地区という地区があり、この四つのクラスター型に市街地がなっています。</p> <p>それぞれ公共交通は市街地同士については連結していますが、どうしても市街地を外れたところになると、バスもなかなか利用が進まない。今まであった路線でもバス会社が撤退するというので、かなりバス交通の不便について市民の皆さんは気にされています。市としても民間で進められない採算の取れないところをコミュニティバスで走らせているわけです。</p> <p>四つの市街地を回るコミュニティバスについても、市役所と北文間地区とか、長戸地区とかに行く路線とか、全部で7路線がありますが、なかなか便数が少ない状況です。ですから市民の、お使いになる方の満足度としては、まだ物足りないというところでは。</p> <p>また、佐貫駅からの常磐線の本数について、以前は1時間に1本、上野方面へ行けばいい状況でしたが、今は4本ほどありラッシュ時等は結構本数があるという状況です。しかし、まだまだ市民の方の要望は強く、満足がいかない状況です。</p>
<p>松尾委員</p>	<p>龍ヶ崎市では今使ってる清掃工場が平成11年8月に稼動しました。それ以前は非常に老朽化した清掃工場があり、公害問題で裁判などいろいろことが起こってありました。</p> <p>その件も含めて平成7、8年位から平成10年代の前半にかけて、いろいろな取り組みを行いました。その際に、指定ごみ袋の導入や資源化品目の拡大などを取り組みました。</p> <p>そして、市全体でとにかくごみを減らそうと、何とかしようという機運が非常に高まり、その後、新しい清掃工場ができたことで安定稼動に至ったわけです。その際の行政、それから市民の皆さんが自分たちで一生懸命に取り組んだことが、ごみ再資源化の満足度に繋がったと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>ごみを減らそう、資源化を進めましょう、ということで資源物回収が周りの市町村よりかなり進んだと思います。サンデーサイクルとして、市内の3ヶ所において、日曜日に分別回収を行っており、他市町村に比べるとかなり出しやすい環境にあると思います。</p> <p>また、龍ヶ崎市では、指定ごみ袋制度の有料化を、実行に移そうとしたこともありましたが、まだ実行されておられません。そういう関係で燃えないごみの回収日が週2回から週3回に増えてきております。</p> <p>これもかなり他市町村に比べると、燃えるごみの収集回数が多いということから、ごみに対しては高い評価をしているのかなと、あくまでも推論ですが、感じております。</p>
<p>事務局 (議事進行)</p>	<p>ここまで地域の特性について、事務局からいろいろ説明させていただきましたが、財政的な観点から、この地域特性について何かまとめたお考えがあれば、飯田委員お願いします。</p>
<p>飯田委員</p>	<p>地域特性は地元なのである程度理解しております。先程、西尾委員から話がありましたが、元々ある市街地と新しい市街地、通常考えれば新しい市街地の方が、高</p>

	<p>齢化率も低くなると考えるのが一般的です。</p> <p>しかし、実態としては、松葉地区は比較的高齢化率が高く、やはり入居開始が昭和57年頃なので高くなっているのかなという印象を持ちました。また、当然調整区域の北文間、大宮、長戸は、やはりほとんどの働き手が東京に流れてしまうということもあって、高齢化率が当然高くなっているのかな、というのは数値上も確認できたと思います。</p> <p>それと先ほど財政運営の不満足の話がありました。この出典は平成22年度頃の市民協働課だと思いますが、データを見てみると、交付税が若干減ってきている時期です。平成20年度が26億円、平成21年度が29億円という形でしたが、ちょうどこの調査をした頃から、また30億円を超える形に回復してきました。財政的にも非常に厳しい時期だったことが起因しているのかなと思います。</p>
事務局 (議事進行)	<p>志村委員からご質問がありましたのでお答えをさせていただきました。各委員から龍ヶ崎市の現状をコメントいただき、ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員長が参りました。では、委員長よろしくをお願いします。</p>
藏田委員長	<p>「3 公共施設の現状把握の手法について」議論を進めて参りたいと思います。</p> <p>各自治体の取り組みをご紹介いただきながら、龍ヶ崎市の再編成に向けて、具体的な調査のあり方等も含めて、議論を進めて参りたいということです。発表の順序はこの資料の順で、西尾委員からご説明をお願いします。</p>
西尾委員	<p>先ほどタイミングを逸してしまいましたが、さっきの説明に意見がありまして、ちょっと一言申し上げてよろしいでしょうか。</p> <p>先ほどは、小学校区別の資料で右下のマトリクス議論をやりました。この資料は非常にいいなと思います。ただ、各校区ごとに状況を見ているということ、これ自体は大事ですが、これはあまりやり過ぎると、各校区ごとにフルセットで施設を整備しなくてはいけないという議論になってしまうので、13校区横並びで見られるような資料を作って、広域的な観点で議論をしていく必要があるのかなと思います。ですから、13校区比較していくのはかなり難しいので、何か工夫をして各校区の特徴や違いを一覧にして、どこが弱みで、どこが強みか、どう組合わせて補完していくか、とそういう議論ができるようなこともしていく必要があるのかなと思います。</p> <p>それともう1点なんですが、どうしてもこのマトリクスを見ると左上の不満足度が高く優先度が高いということに注目していくと思います。もう一つ注目したいのは右上だと思います。右上の満足度が高く優先度が高いというのは、ここは各地区の強みになってくる部分です。パラパラと見ると左上は傾向が似てきますが、右上は比較的地域によって違いが出てきていると思います。弱いところを補完するという視点と同時に強いところをどう生かしていくかということも大事になってきます。今すぐこの右上にもぜひ注目をしていくといいかなと思います。</p> <p>今回いただいたテーマが公共施設の現状把握の手法について、ということでございましたので、さいたま市の状況をご説明するために資料をお配りいただいています。白書の見方と書いてある資料です。この資料は、さいたま市が毎年発行している、「公共施設マネジメント白書」の平成23年の状況がまとめられているものから抜粋したものです。なぜ、この資料を配布させていただいたかと言いますと、さいたま市はこの白書を毎年更新して、公表するというにしているからです。</p> <p>なぜかという白書は、さいたま市の公共施設の状況を市民の皆さんに分かりやすくお伝えするツールであると同時に、マネジメントのツールだと考えています。毎年毎年さいたま市の施設の状況がどうなっているかを、きちんとチェックして、もしそれが悪い方向に向かっているならば、新たな手段を講じて良い方向に戻していく。そういうことを毎年毎年チェックしていくためのツールだと考えています。これを毎年度更新するということが一つの本市の特徴かなと思います。その時に、毎年度</p>

更新するのは非常に職員の負担がかかり、コストもかかりますので、できるだけその負担、コストを下げる工夫が必要だと考えてます。

さいたま市の場合は、市民にわかりやすくお伝えするというのもあって、初年度の白書についてはグラフを多様化してかなり複雑な白書を作りました。その結果、全体が800ページほどになってしまいました。その白書を毎年更新することは不可能ですので、その後ろにつけたデータ編、表ばかりが並んでいるデータ編を毎年更新することにしていきます。前半の加工に手間がかかりコストも手間もかかるグラフ化の部分は初年度だけ、後半のデータの部分は毎年毎年更新をしてマネジメントに活用していこうという発想で作っています。

お手元にお配りしている資料が白書の見方で、どんな項目を取り上げているかという説明があり、一例として72ページに体育館等の表をお出ししています。ハコモノについては各施設分野ごとに同じ体裁になっています。一番左側に施設類型を大分類、中分類、小分類、細分類と設け、施設ごとに①施設状況から、②建物状況、③利用状況、④運営状況、⑤防災状況、⑥コスト状況と大きく六つに分けて項目を整理しました。

マネジメント白書として毎年把握チェックしていくべき項目の整理をして、この表の形式にしています。この中の利用状況の③ですが、この利用状況だけは施設によって取る指標が変わってきます。体育館であれば年間の利用者数とか1日あたり利用者数等々取っていますが、図書館であれば貸出冊数、公民館であれば利用者数などと、その施設に応じて指標だけは入れ替えています。その他の指標についてはすべて共通ルールのもので取れるようにしています。各施設ごとにその状況のデータを取った上で、下の方に施設類型形という欄があり、例えば体育館全部で平均するとどうなるかという平均値も合わせて示すようにしています。

白書の出力の結果がこのようになっていますが、これとほぼ同じ形でエクセルのファイルを用意し各所管に配布をして、エクセル上に直接数値を入力してもらうことにしています。つまり、今ご覧いただいている形が白書の形であると同時に、所管に配布している帳票と同じ形ということになります。毎年度入れ替える必要のない項目、例えば住所や延床面積などは共通ですので、こちらからあらかじめデータを入れております。

それから、他のデータベースからデータを引っ張ってきている、自動的に連携しているものはあらかじめデータを入れて、毎年入れ替えなければいけない部分だけを各所管でエクセルに直接入力してもらうという形で調査をしています。その結果、エクセルのファイルが各所管から送られてきますと、それを行革本部でエクセルのマクロで自動的にこの形にデータベース化をします。さらにはそれを紙に打ち出すと白書の原稿ができ上がるように、帳票とアウトプットのイメージを合わせておきます。所管から入力してもらえば、そのあとはマクロのシステムで自動的に印刷原稿までできるということで、かなり職員の手間隙をかけずに、毎年この白書を更新していく状況を作り上げることができたかなと考えます。

ちなみに、インフラについても掲載しております。262ページは道路橋りょうが主になりますが、基本的には施設状況、それから運営状況、防災状況、コスト状況という項目だけを合わせています。中身はインフラによってかなり違ってきますので、それは施設ごとに項目を調整して掲載しております。

278ページ以降の上水道施設をご覧くださいと、前の方はインフラのそれぞれの状況を示しておりますが、最後の280、281ページをご覧くださいと、ハコモノがあります。事務所、庁舎、配水場や浄水場などのハコモノについては、先ほどのインフラ編の前のハコモノ編で使っている様式や項目だけは活用できるだろうと考えました。インフラについても、中のハコモノについては同じ形式で帳票を整えて、それをそのまま白書の原稿にしています。

	<p>このような形でさいたま市は取り組んでおり、来年度以降は、これに保全に関する情報を加えていきたいと考えています。さいたま市としての保全の考え方を今年度中に整理しているところです。ちょうど毎年更新している白書のデータ項目の整理を行っているところなので、それが整い次第これに保全に関する情報を加えて、さらにはGISとの連動も検討しているので、特に緯度、経度の情報を来年度は追加していきたいと考えています。</p> <p>さいたま市の状況は以上でございます。</p>
藏田委員長	次に志村委員、秦野市の取組みをご紹介いただければと思います。
志村委員	<p>秦野市は、ここにお配りしていただいた、公共施設概要調書と表裏A4の1ページのものが、定期的に更新している現状把握のデータです。表面が主にストックの情報と利用者、開館日数、サービスの情報が入っており、裏面がほとんどコストに関する情報になっています。</p> <p>これを、平成19年度データ、21年度データ、23年度データというように、今のところ1年おきに各担当課へ戻してデータを入れ替えて貰っています。19年度データに基づいて作ったものが秦野市の公共施設白書の本編と解説編です。その次の2年後のデータを取り入れたのが再配置の更新と計画書として冊子になっているもの、23年度データが取り込まれたものが、先ごろ5月に公表された公共施設白書の平成24年度改訂版ということです。必ず収集したデータは何らかの形で市民の皆さんにお見せできるような方法をとっています。</p> <p>ただこのシート自体は公開はしていません。公開していない点が非公開であるという意味ではなく、この状態のままで市民の目に触れるようにはしていないという意味です。これはあくまでも我々が何かを作る際のデータベースにしているものという捉え方です。ここで見ていただくとお分かりになると思いますが、技術職の視点がこれには入ってません。いろいろな自治体でこのようなデータの捉え方、施設カルテのようなものを作る場合、保全のデータが随分入ってくるのは、もう完全にその組織の中に技術職と一緒にいて把握している場合です。我々が技術的な視点で見ているのは、「神奈川県福祉の街づくり条例」という県の福祉のまちづくり条例ですが、これに一致しているかどうかと耐震補強が必要かどうか、そこの2点程度に止めています。</p> <p>将来的には保全データまで全部取り込んだものを作りたいんですが、なかなかそこまで手が回っていないというのが現状です。白書をご覧いただいた方はご存知だと思いますが、秦野市の白書は、このデータを集めて集計したものだけで作ったものではありません。それ以外に統計書、施策の成果報告書、或いは県の統計資料などいろいろなデータを集めて作り上げています。あくまでもこの概要調書は、基本となる情報を定期的に拾い上げるだけの用途と捉えていただいた方がいいと思います。</p> <p>各項目の記載要領は、特にご説明いたしません、後につけました5ページのものになります。この概要調書を作る時に一番注意したのは、あまり施設所管課の手を煩わせない、なるべく記入しやすいようにしようということです。例えば裏面の経費の欄、ここの分類ですが、予算科目の分類のままです。いろいろと担当課で加工したり集計しなくて済むようにしています。その辺は記載要領で徹底すれば漏れがないと思いますが、最初の頃はあまりこのようなものが一般的でなかったので非常に負担をかける仕事だと思い、担当課にはあまり手を煩わさない形でやっています。この形式で特に6年たった今も不都合はないですが、最近ちょっと出てきたのが、受益者負担内容の見直しです。</p> <p>例えば龍ヶ崎市さんのデータを見ても、14節ここに入るお金は、光熱費、いわゆる上下水道の下水道使用料と土地の賃借料、これは性格が全然違います。龍ヶ崎市</p>

	<p>さんでは、光熱費は幾らという括りで既に分けてあるので、そういうふうにした方がよかったのかなと思います。</p> <p>これは何かというと受益者負担の見直しの時に固定費と変動費という概念で物を見ていきますと、土地の賃借料は固定費で、利用者が増えようが減ろうが額は一定です。一方、下水道使用料は変動費で、利用者が増えれば増えるだけ支出も増えていきます。そういう視点を、先人たちの失敗を取り入れた上で、自分たちの目指す最終的な到達点、ゴールを考えて作り直していくとより良いものができると思います。秦野市の内容の説明は以上です。</p>
藏田委員長	はい、ありがとうございます。それでは、習志野の取り組みを岡田委員、お願いします。
岡田委員	<p>私は視点を改めてみてお話をしたいと思います。というのは、時間があまりなかったせいもあり、資料が作れませんでした。</p> <p>習志野市は公共施設白書を平成21年度に作りました。それで去年、若干の作業をして、この公共施設再生計画のデータ編を作りました。平成21年度に白書を作って、それ以降はそれぞれの担当課が、また白書づくりがくるのではと、いつ来てもいいように準備をしていました。それを集めてわかりやすくしただけというのが、今回出した白書の更新版の公共施設再生計画のデータ編です。</p> <p>ですので、今回の調査では、調査表のような表などを一切使わず、与えられている、例えば、決算調書の報告書やそういう公表情報だけをホームページから拾って作りましたので、特にまた新たな調査というものはしていません。そういうことなので、レジュメにも作りましたが、実はその地区の成り立ちなどを把握していこうと考えています。それを更新していくことは実は目下の課題で、今回のデータ編も前の公共施設マネジメント白書に比べると、データの量はすごく少ないです。わざとそうした、そうせざるをえなかった訳として、本当にこれからも、改善に取り組んでいくのに必要な情報とは何だろうと、余分な調査はしないように更新していきかけたのです。今、データ編で分析をしてみて処理するデータはどんなものかということ、考えている途中です。</p> <p>さらに、民間企業やコストや売り上げなど、明確なベンチマークがあるわけですが、自治体はその何をもってして公共施設の再編や再生が成功なのかをなかなか掴みにくい、もしくは第三者市民に見えにくいので、そういう評価方法と合わせてデータ処理をどうしていくか、ちょっと今考えているところです。</p> <p>ですので、具体的にこういうこととやっていますということは、提示できませんでした。ただ、先ほども言いましたように、例えば、レジュメの3ページは公民館の稼働率ですが、担当に貰ったエクセルを利用してグラフ化しただけです。新たに何もこれを調べてくださいとは言っていない。あるものを今まとめた作業ですので、ちょっと参考にならなかったかもしれませんが、現状としてはそういうことです。</p>
藏田委員長	はい、ありがとうございます。龍ヶ崎市さんの事務局からの提案や何か考えていることなどありますか。
事務局	<p>今現在、龍ヶ崎市で持っているデータを今回参考でお配りしました。例えばたつこのアリーナの施設カルテの裏面につけたとおり、開館日数と部屋別の利用人数、ここまでのデータはあります。課題は、ここから先の詳細なデータを調べた方が公共施設再編成に役立っていくのか、ということです。さいたま市では稼働率は利用可能コマ数で割ったり、他の市では、時間別の稼働率を出している市町村もあります。当市で、果たしてそこまでできるのかなという懸念があったのでどこまで必要なのかを教えていただきたいと思っています。</p>

	<p>また、コミュニティセンターも、部屋別の利用状況の集計や利用団体の状況など、持っているデータはありますが、ここから再編成につなげていくことができるのかどうか、教えていただければと思います。</p>
藏田委員長	<p>それでは、データのとり方と取った後、どういう形で生かしているのかを西尾委員、いかがですか、ここの部分の数字的にはわずか3行ですが、手間がかかっていますか。</p>
西尾委員	<p>さいたま市の場合は評価することは、今のところあまり考えていないので取り組んでいません。一番最初に取り組んだ平成22年度の間接報告の中には試しにチャートで評価結果を表わしました。今は評価をして施設の、例えば統廃合の優先順位に結びつけることは保留にしています。ただ将来的にやらないわけではなく、今のところまだ基礎的なデータを整理して、そのデータを使って評価ができるかどうかを今後の課題としてやっていきたいと考えます。そういう前提ですが、基本的には細かく取れば取れるほど、あとの分析がしやすいという面はあると思います。</p> <p>さいたま市でも、施設ごとに部屋別、コマ別で利用状況を取っています。ただそれを新たに各所管の今やっていない追加の作業としてお願いするのは、相当ハードルが高いと感じます。</p> <p>さいたま市の場合は公民館とコミュニティセンターがあり、公民館は教育委員会所管の社会教育施設として、コミュニティセンターは市長部局で持っている市民利用施設としてあります。コミュニティセンターはすべて指定管理者制度を導入しているので、指定管理者がきちんと利用状況を把握して報告することになっているので、もうすでにコマ別、部屋別で収集する状況が整っており、データを貰っている状況です。</p> <p>公民館は予約システムと連動して、コマごとにどれだけ利用しているかを、これも従来教育委員会の中で調査報告をしていた状況がありそのデータを貰って、新たに追加の調査をお願いしているのが今の状態です。</p> <p>それで、新たに追加するのは難しいと思いますが、ただデータの整理ができていないといけません。ある程度広域的に施設の機能分担や広域利用の検討に今後必ずなってくる時に、同じ施設の中の例えば貸し会議室の部分については、どの施設にどれだけの貸し会議室があって稼働率がどれだけのなかを、施設横断的に比較検討して、最適な機能分担のあり方を検討していく必要が出てくると思います。その場合には、さらにその先の議論としてコミュニティセンターだけで比較するのではなく、例えば図書館の中にも会議室があったり、福祉センター中にもそういう機能があったり、機能ごとに見ると同じ貸し会議室の機能を違う施設で持っている場合があります。そういうことも比較しながら最適な分担のあり方を検討していくのが、一番効率的な運営につながっていくと思います。そこまで視野に入れると、どういうデータが必要なのか見えてくると思います。</p>
藏田委員長	<p>岡田委員、コメントありますか。新たにデータを取るかどうか、もし取るとすればどういう取り方があるのか。ちなみにレジユメにあるこの3ページ目の稼働率については、今既存のデータがあるのを直したり集計しただけということですが、ヒントやコメントがあればお願いします。</p>
岡田委員	<p>龍ヶ崎市さんの公共施設再編成の基本方針の中で、あるコミュニティセンターの部屋別の利用件数と利用者数があると思いますが、これは各所管でエクセルか何かで処理されているものなのでしょうか、それとも新たに今回取られたもののでしょうか。</p>
事務局	<p>これは所管課ですすでに持っているデータです。</p>
岡田委員	<p>うちもこの程度です。これを横に地域別に並べてみたりするとどういうことが見えるのか。グラフ化するのは大変ですが、私自身、グラフ化しないとわからないの</p>

	<p>で、どこが高い低い、どういう特徴があるのか、一度この基本方針を広げる意味で、少しやってみるのも手かなと。全部の施設でやらなくても、このデータがあるところでやってみると、いろいろなことがわかって、それと地域性とを合わせてみると、さらにいろいろなことがわかるのかなと。若干抽象的ですが、そのように思います。</p> <p>定期的に、情報をPDCAサイクルでデータの更新をしていかないといけないですが、新たな面が見えないと、それが義務化になってしまいます。所管の人もきっとそれは同じだろうと、その辺を含めて今考えている途中です。</p>
藏田委員長	<p>今事務局がおっしゃった、このコミュニティセンターの表は、元をたどるとどこまで分類された表があるのですか。たぶん受付表を足し算していくわけですね。一番現状にあるもので、データというのはどこまでデータとして入力されているものがありますか。</p>
事務局	<p>各コミュニティセンターで申請書を1枚1枚めくって、月ごとに多目的室での件数と人数というのを集計させています。</p>
藏田委員長	<p>月単位のところは集計して、それをエクセル入力してある状態まではあるということですか。志村委員、秦野市はそういうデータを取っていませんが、そういうところはどうですか。</p>
志村委員	<p>さきほど事務局の話にあった時間帯別稼働率というのは、秦野市のことが頭の中に残っていてくれたのかなと思いましたが、時間帯別までやっているところは珍しいです。</p> <p>でも何故それができたかという施設利用予約システムというオンライン予約システムのサーバに残っていたデータを全部エクセル形式で出してもらったからです。非常に手間でしたが、当時アルバイトの方でエクセルに長けた方にやってもらってできました。</p> <p>今はシステムが変わってしまい、できなくなってしまいました。前は秦野市単独のやり方だったので、データを後から取り出せましたが、今は県下で統一した共用のシステムになってしまい、同じことをやりたいのに、もうそういうデータの残し方、出し方ができなくなってしまいました。貴重な遺産でした。結論から言うと探せばどこかにあったりするものがデータであり、それを得て整理できるのなら、データは多ければ多いほど持っていた方が良いと思います。</p> <p>それを加工して公表するのは、その次のレベルになります。その理由の一つは、例えば時間帯別の稼働率を知ることにより、複合化、或いは部屋の供用化の検討が非常にやりやすくなります。或いは、今までは市民サービスで夜間も開館してやっていますが、曜日別、時間別を調べて本当にこれが市民サービスなのかと、公共施設利用者は限られているので、こんなに低い稼働率なのに開けておく必要があるのかと、そういう課題が見えて来ることがあります。</p> <p>それともう一つは、「公共施設がもう十分です」、「多すぎます」という人はあまりないです。大体利用者に聞くと足りませんと言います。そういう利用者の声を「単なるエゴでしょう」としてしまわないことも可能になってきます。</p> <p>例えば「公民館が足りない」と利用者はみんな言います。何故かという、午前中の稼働率が高く、そこを使ってる人たちが抽選に少しも当たらず、それで「足りない」と言います。ですから、そういうところをこちらが知っておくことで、利用者の声を「そうですね、そうおっしゃるのはもっともです」と受けとめてあげることが出来ます。</p> <p>また、逆のこともできます。データを沢山持っていれば、それはあなた達の単なるエゴですと、ぱったり断じることもできます。でもやっぱり利用者とのコミュニ</p>

	<p>ケーションは非常に大事ですから、そういう時にデータというのはこちらに役にたつし、説明を受ける側にも納得のいくものを示すことができます。手間がかかりますが、物理的限界、限られた人数であると思いますが、出せるのであれば、できるだけ出したほうがいい。</p> <p>あまり担当課の手を煩わせて出すのではなく、できるだけ既存で今持っているものを活用させてもらう方が、庁内に迷惑をかけません。大変な部分は自分たちで背負うという覚悟でやれば、非常に有意義なものが出来上がる気がします。</p>
藏田委員長	コメントをお聞きになってレスポンスがあれば。
事務局	今、志村委員から公共施設予約システムを採用していた、というお話がありましたが、さいたま市えや習志野市も、そのようなシステムの利用をされているのかをお伺いできればと思います。
西尾委員	さいたま市は公共施設予約システムがあり、入口は一つになっています。施設ごとに違う状況ですが、データとの連携は今のところしていません。ただ、おっしゃる通り、施設で連携できると一番効率的にデータが取れます。ちょうど今年度が公共施設予約システムのシステム更改の年度に当たります。今年度中に更改し、来年度は公共施設マネジメントのシステムを作るタイミングになっています。来年度のデータ連携を見越して、今年度の公共施設予約システムの更改をしていくという作業を進めているところです。
藏田委員長	岡田委員、いかがですか。
岡田委員	うちはスポーツ施設で入っていますが、本当にそれはここ1,2年の話なので、全く連携はしていません。すべて手作業でやっています。
事務局	ありがとうございます。今、志村委員からあったのと同様に、本市のスポーツ施設は県のものを使っています、やはりデータは必要だという考えが内部でも出ています。どうしたら効率的な集計方法ができるのかという観点で、システムがあれば良いという話が出ておまして、お伺いさせていただきました。
藏田委員長	どうぞ、志村委員。
志村委員	多分、県のシステムだとデータは取れないと思います。データを活用するという発想のもとに作っているシステムではなく、もう発想が古いです。県下全域がそれを利用しているとデータ量も膨大になるし、そんなに逐一残しておけないです。一度探してみると良いですが、多分だめだと思います。そんなに費用的に違わないと思いますが、どうして切り換えてしまったのかなど。もともとは秦野市も独自のシステムでやっていたので、県のシステムから離脱して、このような公共施設マネジメントまで含めたものに有効に役立つから、市独自のシステムで運用するよというもの一つありかもしれないです。
藏田委員長	事務局、どうぞ。
事務局	<p>続きの話ではないですが、さいたま市の白書についてよろしいでしょうか。</p> <p>大変膨大なデータを取って、さらには毎年更新をされていくという様式で、ちょうど72ページの体育館というところを拝見させていただきました。先ほどの話にあった通り、評価についてはまだこれからですという話があり、このようにデータを取っていき、その次にこれをどのように加工していくのか。或いはあるデータの中から、ポイントとして絞っていくとすると、やはりどうしてもイメージ的にあるのは老朽化、或いはコストの高さ、利用率の低さなどです。ポイントはそういうところですか。その時にはこれは数字の羅列でなく、例えば表など見やすい形で施設が具体的に分かる、或いはその施設の中にさらに会議室という言葉もありましたが、やはり、そういうものを浮かび上げるようなことを連想して進めるのでしょうか。</p>

<p>西尾委員</p>	<p>さいたま市では今アクションプランの策定に取りかかっているところです。アクションプランは施設分野ごとに、施設ごとに年度別の対応状況という工程表を示していく予定です。工程表に乗っかってくる部分というのはハード的な側面が中心だと思います。建て替え時期が来たとか、大規模改修時期が来たとか。そういう時にどういうふうに対応するかということ施設ごとにまとめていく予定です。</p> <p>その中で建替えをする時期が来るとその建物についてどうするのか、そこで廃止するのか、更新するのか、更新するとすればそのまま更新するのか。さいたま市では基本的には更新のタイミングで複合化するという方針を出していますから、複合化するとしたらどの施設と複合するのか、そういう検討が必要になってくると。ですから、さいたま市で今考えているは、先に評価ありきで考えるのではなく、ハード的に更新の時期が来る施設、その時期を特定して、更新のタイミングで具体的にどうするかを、それぞれ個別に検討していく。</p> <p>ですから、A小学校が来年度更新時期が来るとすると、A小学校のデータを引っ張り出してきて、A小学校の状況を細かく調べる。複合化するのならA小学校の半径500m、或いは1キロの範囲内にどういった公共施設があり、それぞれの公共施設の老朽化の状況や利用状況などもできるだけ細かく調べて、どういった複合化ができるのかを検討していくと。そういうやり方ですと、すべての施設について部屋毎、時間帯ごとに調べていく、毎年データのメンテナンスをしていくのは大変ですが、個別のケースについて、その周辺にあるこの施設とこの施設について詳しくデータを調査をして、そして、複合化の検討をしていこうということ十分対応可能なことと考えており、そのようなアプローチの仕方では取り組んでいるところです。</p>
<p>藏田委員長</p>	<p>ただ今、そこに議論を持っていこうかなと思っていました。データがあればあるほどいい。けれども、議論のポイントとしては何を指してデータを取るのかが重要であり、それに向けて必要な範囲でどこまでやるかという議論はあるが、どこをどういうふうにするのかそこがポイントだと思います。たぶん、示唆的なことはいろいろおっしゃっていただきましたが、そういうことに焦点を当てるなら、すべての施設ですべての時間別を調べる必要はないのかもしれないとか。</p> <p>その辺は市として、こういう現状把握をするにあたって、どのようなところを中心にして考えていくのか、議論をしていったほうがいいのか。今の現状は、話を伺っていると潤沢なデータがあるわけではない。ですから、細かなところは、西尾委員がおっしゃるように、エクセルの表1枚フォーマットできちんと渡して日々入力してもらっただけでも、良いのかもしれないです。どの辺を指してデータを取っていくのか少し優先順位を整理したほうが良いと思います。</p> <p>その辺の議論は多分行ったり来たりだと思いますが、今までやってきたご経験の中でなにかありますか、岡田委員。</p>
<p>岡田委員</p>	<p>話が違ってもいいかもしれませんが、うちの場合は老朽化がかなり進んでいるので、早く評価し終えて、机の上から脱しないと、いつまでもデータを収集することばかり言っていられないのが一つあります。</p> <p>龍ヶ崎市が作成された基本方針を見ていると、少し乱暴すぎるのかもしれないですが、まだまだ本市に比べて新しい施設は全然新しいと。これは調べずに話しているので分かりませんが、統廃合や建て替え以前に計画的に維持保全をしていき、建物に関する維持費を減らしかつ計画的な保全をしていく方が、もしかしたらいいのではないかと。最も龍ヶ崎市さんに、統廃合が絶対いらぬわけではないですが、最もいい方向かもしれないと思います。</p> <p>龍ヶ崎市さんにお伺いしたいのが、ファシリティマネジメントという言葉がありまして、最近ファシリティマネジメントというと、統廃合など全部含めた何か、建物を含めた経営手段のような大変大きな話になってしまっていますが、狭義のファシリティマネジメントというのは、建物を維持保全していく考え方だと思います。部署の名前はわかりませんが、営繕や建設部さんなどでもししたら、小まめに熱心に</p>

	なさっていることがあるかもしれないので、どういうデータをお持ちか調べられましたか。
事務局	財政課の管財グループで、ファシリティマネジメントで費用が必要かという計画を立てようとしていた時期もありました。
飯田委員	<p>ファシリティマネジメントは財政課で平成13年の頃から行って参りました。その際、必要なもの、これはいらんんじゃないかという部分から施設の現状を見て貰い、これこれは何年後に更新が必要でしょうと、そういうことも含めて見て貰いました。</p> <p>結論から、例えば庁舎の維持管理でいうと、当初5,000万円位の維持管理費がかかっていたものが、3,000万円程度まで落ちたという実績もあったと思います。その中である程度施設の更新費用や施設の現状など、建設費用的な部分を一旦取りまとめをした経緯はあります。そのデータを基にしながら、今回の公共施設再編のデータとして活用していければと担当の方とも話しております。</p> <p>ただ、それについては、今どこまで議論になっているのか、どこまでのデータを取るのか、どこまでのデータが必要なのか、先ほど委員長から話がありましたが、龍ヶ崎市は何を目指していくのかと。そういうところも含めて今回、どういう形で方向づけをしていったらいいか、その辺のところを参考にしたいと思っております。</p>
藏田委員長	よろしいですか。
西尾委員	あともう一つ、ちょっと分かれば教えていただきたいのは、学校の比率が高いですが、教育委員会では学校施設の整備計画のデータはお持ちでしょうか。
事務局	今すぐにあるかないか明確な答えを持っておりません。
西尾委員	<p>別にそのお答えは無理にはいいです。これはちょっと反対論が出るかもしれないですが、やっぱり一番多いところから取り組んでいった方がいいかと思えます。利用者ということも分かりますが、コミュニティセンターを調べても面積的にはそれほどでもないし、一番先に取り組まなければならないところをまず決めて、そこから重点的に進めていった方が、多分当市もそうですが、小さな組織はなかなか人が少なく大変なので、その辺から決めていったらどうかと思います。</p> <p>それで、それに付随するデータを集めて、イコール、行動計画掲載施設に繋がっていくとより効率的かなと。漠然的とした言い方で申し訳ありませんが、そういうことを一緒に考えていければと思います。</p>
藏田委員長	お考えいかがですか。
龍崎委員	<p>龍ヶ崎市の場合には、60%、教育関係の学校施設を持っておりまして、我々が議論する中でも、一番多いところから考えていくべきだという考えは確かにあります。ここから進めれば一番効率的にいくのかなという思いはあります。</p> <p>しかしながら、当市の場合には13の小学校があり、学校施設はそれぞれの地域の中心的な施設となっており、その地域の方や教育委員会との調整にはかなりハードルが高い部分があります。そのようなことで学校施設は当然頭に入れながらも、何か他の施設で少しでも再編に向けての取り組みができればと考えている状況です。全国的にそうだと思いますが、教育施設をどうこうするのは、短期的に結論が出せる状況ではないので、その点は十分頭の中に入れながら、今後考えていかなければならないと思っています。</p>
事務局	<p>先日、習志野市の説明会に出席させていただきました。今、作っていらっしゃる計画を拝見して、かなり長いスパンで、学校施設の統廃合、或いはその複合化を目指して市長部局からどんどん積極的に進められていると感じました。</p> <p>そこで、教育委員会との刷り合わせはどのようにしていますか。</p>
岡田委員	簡単に言いますと、資産管理室長が学校教育部の参事も兼ねています。施設再生

	<p>課という技術者集団の施設再生課長も主幹もそれぞれ教育委員会の兼任が掛かっています。そこで、案を上げて、教育総務課の現場と相談をして調整を取っています。その辺は具体的にシステム化されておらず、顔を突き合わせるという方法でやっています。それで、こういう案でどうですか、いやこれはちょっと困るな、だったらこうしましょうかと。説明会ではこれを出しますよ、これだったらOKだろうみたいな、ある種どぶ板的な打ち合わせでやっています。</p>
藏田委員長	西尾委員、どうぞ。
西尾委員	<p>先ほどの岡田委員のご発言に関連して、龍ヶ崎市さんの将来費用の推計を拝見すると、ハコモノは現状の1.5倍かかる。これは私の知る限りでは一番少ない、非常に状況がいいと思います。インフラを含めても2.1倍ということで、さいたま市よりも状況がいいと思います。確かにこれぐらいのレベルだと、そんなに統廃合をしなくてもいけるかもしれないと感じます。</p> <p>例えばさいたま市でいうとインフラは、長寿命化の効果がかなり見込める場合があります。さいたま市の橋梁のアセットマネジメント計画では36.5%コスト削減、80年間で36%削減できています。その他は先ほどの事業保全から計画保全に変えて長寿命化をすることによって、多少コストを先送りするという側面もあり、これだとかなりいいところまでいける可能性があると思います。場合によっては、そういう長寿命化の検討、アセットマネジメントの検討をされて、そのうえでどれだけの施設を減らさなければならぬのかを考えて行くということも必要かなど。それによってかなり戦略も違ってくる、力の入れ方とか。それをやって見てみようかなというのをちょっと感じました。</p>
藏田委員長	<p>そこら辺のことは一部基本方針の中にも書かれてますが、連携とか連動とか。どのぐらいのボリューム、役割分担でやっていけるかということは、企画サイドで何か検討などございますか。</p>
松尾委員	<p>ファシリティマネジメントは平成13年から行ってきております。まず第1期としては、設備管理の共通仕様や共通単価の採用ということで、コストダウンに関して取り組みました。第2期として、予防保全の考え方から、設備の現状を調べて一つ一つデータ化をして、そして適切な時期にきちんと交換や修繕をしようとする中期的な計画を立てたので、いよいよ第3期で今度は長期的に設備も含めた管理をしていこうという時期に震災があり、実はそちらの復旧復興で滞ってしまったという経緯です。</p> <p>一方で公共施設再編成の取り組みを進めていかなければならないと。ただ、当市の場合は施設全体がまだまだ若いということもあり、先ほどからお話が出ている通り、FMの取り組みと合わせる形で公共施設の編成或いは再配置ということやっていかないとだめじゃないかなと、企画課、財政課とは話をしているところです。そのことも踏まえて基本方針の中で若干触れたわけですが。</p> <p>ですから、FM自体は10年以上の実績がありますので、それをここで無駄してはならないという認識は一応あると、そういう状態です。</p>
藏田委員長	<p>基本方針の15ページのところにも2001年基準で、10年間で8億以上の経費削減という表が載っていますが、今おっしゃったFMは、最初のうちは効果がやすい、その先は乾いた雑巾を絞っていくような形になるので、その辺のこともございますか。</p>
松尾委員	<p>そうです。やはり最初はコストダウンから入ったものですから、例えばその設備の管理を業者に見積もりをもらって単純にそれを参考にしてやるということから、いろいろなものを比較検討して我々が仕様書を確立して、単価も標準化するというのをやると、明らかにコストダウンに繋がります。</p> <p>そういうことをやっている時は、やればやるほど実績として出ますのでやりがい</p>

	<p>があります。そのあと、中期計画まではいいですが、長期計画となると、それぞれ大体その投資経費が何倍ぐらいかかるか、経験則で数字を出して、しかもそれが10年先15年先となると、本当に効果があるのかと。一方で日常の業務に忙殺されてしまう面があります。特に担当である財政課管財グループは日常的に設計監理や現場監督をしながら、一方の管理業務もこなさなければならないのは、やはりかなり厳しいところがあります。そういう意味では専属の組織を今後考えていかなければと思っています。</p>
藏田委員長	<p>ありがとうございます。西尾委員、どうぞ。</p>
西尾委員	<p>読み込み不足だったかもしれませんが、そうすると、FMはかなり取り組まれていて、長寿命化等は折り込んだものが、この結果になっていると考えてよろしいですか。そうすると、基本的には長寿延命化以外で公共施設の再編に対応していかなければいけないと。</p>
松尾委員	<p>そこまで深く考えてはいないと思います。データとしては、財政の管財グループで、中期保全計画のデータを持っていた。合わせて財政グループでは、財務諸表、総務省の基準モデルを使っているの、固定資産台帳を持っています。そのインフラも含めた固定資産台帳と管財の中期の保全計画のデータをベースに、基礎資料を整理していったということで、必ずしもそちらの計画とリンクされていないと、そんな状態だと思います。</p>
西尾委員	<p>総務省自治総合センターから提供されている、推計ソフトがベースと書かれています。このソフト自体は基本的には30年大規模改修をして、60年の耐用年数という設定をしています。例えばさいたま市では20年ごとに修繕改修をして80年使うと。今20年長寿命化するという考え方を整理しましたが、20年伸ばすだけでもかなりコスト削減の効果というのが出てきます。そういうこともちょっと織り込みながら、ではそのコスト削減でどれだけ対応して、施設としてはどれだけ減らさないといけないのかと。そこはもう一度、検討してもいいのかなという気はいたします。</p>
藏田委員長	<p>さいたま市の20年毎で80年まで引っ張るとするのは、何か根拠たるものがあるのですか。</p>
西尾委員	<p>それは保全管理課で技術的な検証、学会の論文など、いろいろ根拠を整理しながらです。</p>
藏田委員長	<p>そういうことも含めて龍ヶ崎市としての資産管理の部分と、全体としてハコの総量のマネジメントをしていくのかは、それぞれいろんな形のオリジナルのパターンも作ろうと思ってやっているということです。そういう意味では、FMは10数年やっているノウハウも含めて、財政の部分とも連動しながら、さらには教育委員会のデータも貰いながらという中で、新たにデータを調べる前にやらなければならないことを、もう少しスリム化することができるかもしれないです。</p> <p>財政課長である飯田委員、いかがですか。</p>
飯田委員	<p>先ほど、FMの話も出ましたが、ある程度削減効果を出してきております。雑巾を絞るという話の中で、維持管理的な部分としてはかなり絞り込まれたかなと思います。その中で修繕計画をどうしていこうかという話の延長線上で公共施設の再編の問題が出てきました。先ほど西尾委員の発言にもありましたが、専門部署的なところである程度分析をしながら進めているというお話を伺いまして、逆に言うと、龍ヶ崎市の場合、やはり自治体としての規模も違いますし、組織的な対応としてそこまではなかなかできない部分もございます。</p> <p>企画課が今現在進めている公共施設の再編、その中で組織的な部分ということも含めて、今後対応していかなければならないのかな、ということは今感じております。いずれにしても、やはりFMからの関連性に継続して取り組む延長線上に今回</p>

	<p>の議論があるということだと思います。その辺はやはり人的にも、今後考えていかなければならない問題なのかなと思っています。</p>
藏田委員長	<p>ありがとうございます。岡田委員から国交省の研修の中でなにか、その辺に参考になるヒントはありませんか。</p>
岡田委員	<p>今からいう言葉は受け売りです。武蔵野市さんがFMをずっとやっておられて、割と龍ヶ崎市さんと同じ入り方をしているのかなと思います。また感覚的なものですが、千葉県の佐倉市さんもFMから入って長年取り組んでおられます。片や習志野市は全くその反対側から入っています。そのようなFM以前に公共施設の財政的な視点から、このままだとさらにもう建て替えもできなくなるぞ、老朽化がすごいぞということで逆から入ってきています。</p> <p>そのようなFMから入った自治体さんを非常に参考にさせてもらっています。先ほど、雑巾を絞り切るみたいな話がありましたが、佐倉市さんなどのようにFMから入った自治体はもう絞り切れなくなって、いよいよ我々がやってきたような白書を作らないといけないという話をよく聞きます。</p> <p>そこで武蔵野市さんが表現されていたのが、FMは質の見直しで、あるものをどう維持していくか、それに対して、PREという言葉を使ってきましたが、PREの取り組みは量の見直し。公共施設の量やもちろん統廃合もそこに入ってくるし、複合化の問題も然りであると。その両方を進めていかなければならない、というまとめ方をされていましたが、私はその言い方になるほどと感じました。</p>
藏田委員長	<p>そのような意味においては多分、先ほど、龍崎委員がおっしゃったように、量的に見直ししていくというのは前回の議論でもそうですが、かなりハードルが高いということです。まず、質的なものを高めていながら、絞れるものを含めて工夫した上で、量的な見直しの目標額を達成するラインを作らなければいけないと思います。それは、その量が決まらなければどの程度の力加減で議論する必要があるのか、この会議のメンバーとして多分関わってくるところです。それによって、本当に習志野市さんのようにやむにやまれずやらざるを得ないのなら、多少、力技で持っていかなければいけないところもあるでしょうし、そうではなくソフトランディングできる可能性があるのなら、その部分を追求していくというのが一つの検討の手順として必要だということです。</p> <p>そこについては、個別の現状のデータを洗うことを議題としてここに掲げて議論してきましたが、既存のFMと連動、長寿命化との連動、教育委員会部局での長寿命化を含めての検討等のすり合わせは、もう少し切り込んでいける余地がございませうか。そこはなかなか難しいということであれば、現状からスタートして議論するしかないと思います。</p>
龍崎委員	<p>今までの皆さんのご意見を拝聴しておりまして、当市の状況がまだちょっと余裕があるということも踏まえ、ここで力技で量を減らすことを今すぐにやる状況ではないと。FMを十分にしておいて他の部門と連携をもっともっと深めて、総合的にどういう形でやっていったらいいのか、こういったことも必要なのかなと今話を頂いて感心して感じるところです。</p>
藏田委員長	<p>ありがとうございます。志村委員、何かコメントありますか。</p>
志村委員	<p>傍聴人を意識しているわけではないのですが、龍ヶ崎市さんはこれ以上、施設の管理運営費を現状のまま絞ろうとしても出てこないレベルだと思います。いろいろなデータを拝見しましたが、これは秦野市と一緒にです。</p> <p>秦野市は、シンボル事業で、学校の体育館とプールを温水プールにして、公民館の機能をつけるという事業をPFIでやったら、どれぐらいのお金の効果が出るかを算定してもらったら効果が出ませんでした。何故かという、公共施設のライフサイクルコストで、一番大きなフローは管理運営経費です。秦野市は、管理運営費</p>

	<p>用が絞れるところまでもうすでに絞りきっているの、民間でやってもそんなに効果が出てこない。それに加えて建て替えの費用を民間の知恵と力で削減したとしても、民間の資金調達金利の方が高くなるので、相殺されてしまい、結局30年間のランニングコストは今まで通りやったのとPFIとあまり変わりませんという調査結果になってしまいました。これは、今日あたりホームページで公表しますが、そういう状態と同レベルだと思います。</p> <p>データをどれだけそろえるかも含めると、小中学校は確かにストックとしては多いですが、その後のライフサイクルコストで考えれば、小中学校にかかるお金はそれ以外の施設のたぶん3分の1ぐらいだと思います。ストックを減らす効果をねらうので、みんなそこへ目をつけがちですが、実は30年、40年と長期にわたって財源をどうするのかと考えたときには、それ以外の施設のフローをどうするのかのほうが、かなり効果があります。これは秦野市の考え方ですが、小学校は最後の手段だと考えて、小学校を残すことでやっています。他の部分にメスを入れざるを得ないと。</p> <p>秦野市の場合、人件費で削れそうなものは、民間でもやってることを直営でやってる施設、具体的には幼稚園や保育園などを民間にしない限り、そのフローの部分が出てこない状態です。ですから、この先いろいろなデータの把握とありますが、小中学校に関しては本当にハコだけの話なので、あとは市としての政策的な姿勢の問題にかかる話です。小中学校に関しては、必要なものは児童推計ぐらいかなと思います。将来その学校が複式学級になってしまうのかどうかを見据える。それは計画に大きな影響を与えたいと思います。</p> <p>ですから、それ以外のところで、これだけ絞ってきたけれども、もう多分ぼたぼたとは出て来ない、今までの発想ですとぼたぼたとしか出てこないの、さらに一段上の発想でばっさりやらざるを得ないのが、龍ヶ崎市さんの状況ではないかと思えます。もしかしたら、そういう事を見据えた中で、いろいろなデータを収集される方がいいのかなと。ただ今の時点でどこまで見据えるのかということは、非常に難しいと思います。客観的にいろいろな自治体の状況を見ていますが、龍ヶ崎の行革の進み具合は一番とはいませんが負けたくないと思います。</p> <p>以上を参考にさせていただいて、どういうものを集めるのかということ、またご検討いただければと思います。</p>
藏田委員長	<p>秦野市の場合、フローは学校を残すことを前提にやっているという話です。どれぐらいの目標年、スパンで全体のプランを設定されていらっしゃるのですか。</p>
志村委員	<p>秦野の場合には、60年で建て替えを優先し、その中でも小中学校はその時点の児童生徒数の推計に応じた大きさまでしか圧縮しませんが、40年間でおよそ26%で学校の縮小は4分の1程度減らすだけです。トータルで40年間で31.3%の削減目標を立てており、それ以外の施設のストックは43%ぐらい減らす事になります。そこまで減らさないといけないとなると、当然、先ほど言ったように幼稚園は全部公設公営で残すのは不可能なので民営化する。それによって人件費がものすごく浮いてくるので、残ったお金がハコモノの建替費用の不足分に回る主な財源になるという目標の内容になっています。</p>
藏田委員長	<p>その辺の財源は、龍ヶ崎市さんの検討の中でフロー部分は、ライフサイクルコスト中17%、18%がイニシャルコストで、残りの82,3%がランニングコストの割合だと聞いたことがあります。それから、ハコだけではなくそこに付随している運営費も含めて、指定管理者制度を導入していると一部にありましたが、そちらの行革的な取り組みとの連動、もしくはそれに対する踏み込みはどんな状況でいらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>指定管理者については企画課で所管しておりますが現状で言いますと、今年度平成26年の3月まで現在契約期間の9施設をまた見直していきます。今後について</p>

	<p>も市の施設は積極的に指定管理者を取り入れてやっていく考えで進めております。</p> <p>そして、今公表してる中では総合体育館外の体育施設について、指定管理制度の導入を現在進めているところです。そしてやはり大きなメリットは、管理運営費用の圧縮を図ることができるという考え方で進めています。</p>
藏田委員長	<p>残り 10 分程度ですが、現状ワークについてちょっと振り返ってみると、現状あるデータを最大限活用していくというのが大前提で、その上で、どこまで取れる範囲のデータを取っていくのかと。それについては、どこを優先的に、何のためにやるのか、データがあればあるほどいいのですが、そうでなければ、学校の施設で何かに関連する中でデータを詳細に深掘りして、データを取っていったらよいのではないかと、ということだったと思います。議論としてはそれぐらいの議論でよろしいですか。</p> <p>ある程度次回に向けて、龍ヶ崎市さんとしては各現状把握や今あるデータを探って作業を進めていく方が作業が動く状況なのか、それとも少し議論しないと難しいですか。</p>
龍崎委員	<p>何を目的にするかは非常に重要だと思います。今後内部で議論をして、必要なデータは取っていく方向で進めたいと考えています。その中でどういうデータが必要で取っていくかは議論して、次回はこういう形でやっていくという考え方を示して、またご指導いただければという、次回までの宿題の形で、市の考え方をまとめていければと思っています。</p>
藏田委員長	<p>そういうことを含めても、皆さん、ご経験おありになりますので、何かそういうことを進めていくにあたり何か留意点、アドバイスを含めて一言ずついただいて終わりたいと思います。どなたか、岡田委員。</p>
岡田委員	<p>注力すべき、龍ヶ崎が取り組むべき、伸ばすべきところはいろいろあると思います。当市の場合は学校施設が一番老朽化していたし、多かった。なぜか、学校施設というと統廃合して地域や子供たちに悪影響を及ぼすと見られがちですが、習志野市の場合は、地域と学校を一番に考えています。学校の統廃合以前に、学校を地域の拠点としてどう扱っていかうかというところで、学校に注力をしようと言っています。</p> <p>地域と学校の話でいうと、いろいろ問題がありますが、秋津小学校は、全国のコミュニティスクールのモデルになった学校です。ですから、当市の場合は、自治体としてただ単純に統廃合をやるという意味で、公共施設の再生における取組の中で学校に力を注ぐのではないということだけは申し上げておきます。</p> <p>それで、先ほどからいろいろな話し合いがなされていますが、龍ヶ崎市さんのポイントはどこにあるのかということ。2点目として、FMの話が今日出ましたが、FMは委託料を削ったり、ぞうきを絞るだけの話ではなく、やはり施設自体がまだまだ寿命があるわけですので、それを長く維持していくためにFMを使うのは、これまで削減で培ってきたノウハウを生かすにはいいと思います。そういう意味でFMに触れましたが、これ以上委託料を増やそうと言ったのではありません。やはり今まで13年間やって来たことは生かしていくべきではないかと思います。その上で、基本方針の6ページの築年別整備状況を見ると、市役所の庁舎が一番大きな山として来ています。他にも産業系施設がありますが、そういうところです。これらを長寿命化するのか建て替えるのかよくわかりませが、そういう意味では何か大きな今後のストーリーが必要です。それには、ここでこういうデータを取って調べてみて結論は幾つかあるのかわかりませんが、これがこれから取るべき対策の一つであり結論を導き出していけるのではないかなと思います。</p> <p>でするので可能であれば、準備していただくことはないですが、市役所庁舎の更新や改修が目前に来るのは、龍ヶ崎市さんにご存知だと思うので、そこに対して準備していったものがあれば教えていただくとありがたいと思います。</p>

事務局	市役所庁舎は大規模改修、実施済みです。
岡田委員	ここで、市役所庁舎の建て替えを、いつ頃行うのかについて、もう少しご説明お願いしますか。
事務局	耐震補強は完了しているという段階で、長寿命化計画までは行っていません。
藏田委員長	よろしいでしょうか。西尾委員。
西尾委員	<p>今日いただいている資料で、コミュニティセンターで言えば、各施設ごとに部屋別の利用者数と件数はもうすでに把握されているので、これだけのデータで市全体のコミュニティセンターのそれぞれの状況がどうなっているかは、十分分析できると思います。ただ一つ一つのコミュニティセンターが統廃合できるかどうかという検討に耐えられるかという、それは耐えられないと思います。もし、施設の統廃合まで含めた分析や評価までやるのなら、それを前提としたもっと細かいデータを集めなければならないと思います。</p> <p>今日の議論の中にありましたが、評価や分析をどこまでやるか決めると、それに必要なデータが決まってくると思いますので、その関係を整理する必要があると思います。その時には、当然ながらその新たなデータを調べると言うのであれば、その分所管側もまとめる側も負担は増えてきますので、その負担に耐えられるかどうかも考えていく必要があると思います。</p> <p>ちょうど、さいたま市はできるだけ評価をしないでソフトランディングしていこうという立場で、逆の習志野市さんは最初にできるだけ評価をしてやっていくという両極の事例があります。ですので、両方の意見を聞きながら、龍ヶ崎市さんとしてはどこのポジションに行くのか、やはり評価していかななくてはいけないと言うならば、頑張ってデータを集めなければならないと思います。</p>
藏田委員長	最後に志村委員、お願いします。
志村委員	<p>まず、データは使いこなしてこそで、あまり集め過ぎて振り回され過ぎていけないので、あえて申し上げなくともお分かりだと思いますが、そこに注意して今後整理を図っていくとよろしいかと思います。</p> <p>あともう1点、いろいろな資料を見ましたが、何地区何地区という地区割を龍ヶ崎市は、していないようです。秦野ですと例えば、昭和の大合併以前の旧町村単位が、そのまま地区割でずっとコミュニティ単位で生きています。まずその地区割があって、その中で1小学校区、2小学校区とありますが、今こちらを見る限りは、コミュニティの単位としては学区が一番重要視されているようです。</p> <p>そうすると、まさしく、財政状況ややってきたことが、風土や自然環境、市域が広い、人口密度などの点から見ると、秦野市に非常によく似ています。学区単位でコミュニティの編成がなされているという点では、習志野市さんによく似ているのかなと思いました。その中間的なものを見据えると、何となく今後の形が見えやすいかもしれない、ということをお感じになりましたので付け加えておきます。</p>
藏田委員長	ありがとうございます。松尾委員、総括的なコメントをお願いします。
松尾委員	<p>龍ヶ崎市では、FMの取り組みは確かに早かったと思います。FMは最初からコスト削減や予防保全だけではなく、ゆくゆくは長期の計画まで持つていく予定で、私が財政課長の時に、第2ステップまでは行きました。そして、第3ステップまでいこうとしている時には、いろいろな自治体さんから視察等の方もお見えになりました。でも当市はまだ第3ステップ、本当の目的までは行ってなくて、これからですというところで止まってしまったのがいかにも残念でした。</p> <p>併せて、行革の取り組みで龍ヶ崎市には私立の幼稚園しかなく、公立は一つもありません。保育園も民営化を進めた結果、今公立は一つしかありません。私立がどんどん増え、定員も増えていますが、今はそういう状況です。</p>

	<p>それから、学校給食もセンター方式で、かつ調理業務は全部委託していますので、相当のコストカットを今までやってきております。ですから単に予防保全をして、施設を良好な状態にすればいいかという決してそういうことでもありません。やはり、今後の社会を考えて財政状況を良くしていかなければならない。特に経常収支比率が高いかという視点はやはり欠かせないと思っております。</p> <p>ですから、いろいろな思惑をいかにこの分野で担っていかなくてはいけないのか、市としてもこの取り組みの目的や目指すべきところを明確にするために、それを議論でより有効なものにしていかなくてはならないと思っております。次回以降その辺を担当の方で整理をして貰い、この場でお話しできればと思っております。</p>
<p>藏田委員長</p>	<p>一応定刻になりました。次回は倉斗副委員長はいらっしゃるそうです。具体的なことや方法の議論は当初の予定と思っておりましたが、今日の議論を含めて整理していただいて、次回改めて議題をセットしていただければと思います。</p> <p>基本的には、西尾委員や、岡田委員、志村委員にまとめていただいた通りですので、それほど技術的に難しくはないと思います。よく検討いただき、どういう方向感を持って考えるのかということだと思います。</p> <p>考えていたものが正しいかどうかはやってみないと分からない部分もあります。ただそういうことを市として事務局としてたたき台で結構ですので、一定の方向感を示していただければ、もう少し具体的な実践的なアドバイスという意味での議論になっていくと思います。それらのことを含めて受け止めて少し整理をしていただければと思います。</p> <p>それでは、これで進行は終わります。以上で事務局にお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。次回の開催日程を、もう一度確認をさせていただきたいと思っております。次回は第3回となりまして、8月21日水曜日でございます。時間と場所は同じとです。よろしく願いいたします。以上でございます。</p> <p>では、長時間に渡りましてありがとうございました。以上をもちまして、第2回有識者会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>
	<p>平成 年 月 日</p> <p>委 員 長 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p>